

【コマ（パッキン）の交換方法】

❗ 止水栓を止めてから作業を行ってください。

交換の際は市販のコマ（パッキン）をお求めください。

◆ パッキン  直径14ミリ コマ用パッキン（水栓13用）

【お手入れ時のご注意】

- 吐水口部が詰まると吐水量が少なくなったり、温度調整ができなくなるなどの十分な機能が発揮されなくなりますので、ときどき吐水口部を掃除してください。掃除を行う際は、吐水口部をはずして、網目や穴に詰まったゴミをブラシなどで取り除いてください。
- 水栓の清掃は、乾いた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。それでも落ちないときは、水ぶきし最後からぶきしてください。
- 研磨剤入りのクレンザー等は、本体表面を傷つける恐れがあるため使用しないでください。
- シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は使用しないでください。

【故障かな?と思ったら】

故障したときの修理は、水道工事店にお問い合わせください。

なお、修理を依頼する前に、次表を確認して点検を行ってください。

症状	点検項目
吐水量が少ない	・ 止水栓は全開にされていますか。 ・ 吐水口の目詰まりはありませんか。（【お手入れ時のご注意】参照）
止水できない	・ ハンドルは全閉になっていますか。

プレーンフォーセット

取付・取扱説明書

施工後は本書を、お施主様にお渡しください。

【施工上のご注意】

- 取り付け工事は水道工事店にて行ってください。
- 本体は確実に垂直・水平に施工してください。

【使用上のご注意】

- ❗ ○ 冬季凍結の恐れのある日には、器具の破損防止のため、蛇口や水栓柱を毛布やボロ布で巻き、上からビニールなどをかぶせてください。凍結防止となり蛇口や給水管の破損を軽減します。また、少量の水（1分間に牛乳瓶1本程度）を出しっ放しにしておく「流動方式」や、不凍栓の設置による蛇口・給水管の水抜きを行う等、地域や気候に応じた凍結防止対策を行ってください。（技術的なことは水道工事店にご相談ください。）
- ハンドル操作の急閉止は、配管からの水漏れを起こす恐れがありますので、ゆっくり操作してください。家財等を濡らす恐れがあります。
- 専門業者以外の方は分解したり、修理・改造は行わないでください。ケガや故障・破損の原因となります。
- 水道水以外では使用しないでください。機能低下や破損の原因となります。

【蛇口取付け時のご注意】

- ❗ 止水栓を閉めてから作業を行ってください。

【蛇口取付前の準備】 配管内のゴミを取り除くために、1分程度勢よく通水（フラッシング）を行ってください。

- ⚠ 配管内のゴミが残っているとパッキンを傷つけ、水漏れの原因になります。

【蛇口を交換する場合】 蛇口を交換する場合は、古い蛇口を左に回してははずします。

【蛇口の取付け方法】

① シールテープを巻きます。

水栓金具の雄ネジ端部から1-2回転ネジ山を残し、軽く引っ張りながらネジに食い込むように6回以上巻いてください。取り付ける水栓柱に合わせて巻き数は調整してください。

⚠ 巻き過ぎにはご注意ください。水漏れを誘発します。

⚠ 立水栓本体への過剰な負荷は、ねじ込み難さや内部配管の破損に繋がる場合があります。

② 蛇口本体を水栓柱に取り付けます。

水栓金具の雄ネジは最後までねじ込まず、立水栓本体との間に1回転分程度の隙間がある状態で中央に来るよう位置決めをしてください。うまく位置が決まらなかった場合は、一旦外してテープの量を加減して正しい位置になるよう調節してください。

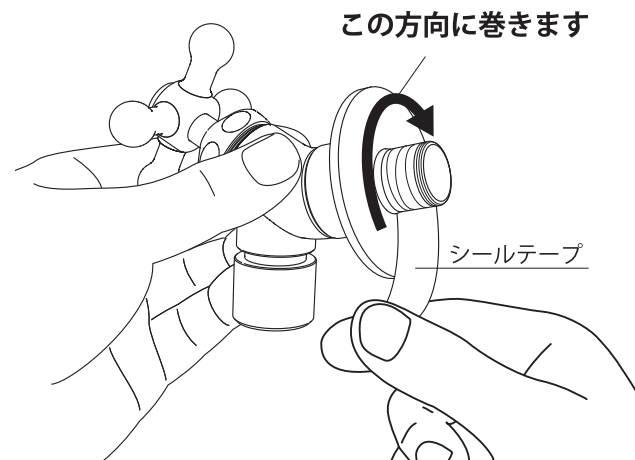
⚠ 一度ねじ込んだものを左に回して戻すと、水漏れの原因になります。

⚠ 立水栓本体にキズが付くほど力いっぱいねじ込むと内部配管を破損し、水漏れの原因となる場合があります。また、立水栓本体の塗装を破損し、腐食を招く恐れがありますのでご注意ください。

③ 水漏れを点検します。

止水栓を開き、水漏れの発生がないか点検します。

❗ 水漏れする場合は①に戻って作業をやり直してください。



立水栓本体に傷がつくほどねじ込まない

